

優秀若手構造研究者表彰（コンクリート系）選考結果及び選評（令和元年度）

一般社団法人 建築研究振興協会

優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）

委員長 平 石 久 廣

1. 応募状況

標記については令和元年6月17日から11月20日の期間において募集したところ、博士前期課程（修士課程）対象3名の応募があった。

2. 選考経過及び選考結果

受賞者の選考は、一般社団法人建築研究振興協会に設置された優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）、（以下、「選考委員会」と略記）において次のように行った。

11月22日の選考委員会において、審査方法、審査手順について確認し審査を行うこととした。公平、公正な審査を行うため、例年、応募者の指導教員は加わらないこととしているが、本年度はこれに該当する委員はなく、末尾に掲げる委員全員で審査・選考を行うこととした。選考委員は、応募者の申請書類、掲載論文一式を検討し、あらかじめ定めていた選考に係わる内規に従って論文の内容等に関する評価項目についての事前評価を行った。

次いで、令和2年1月6日に選考委員会を開催し、選考委員から事前に行った評価の視点、考え方等について意見交換を重ね、委員全員の合計点を勘案して、総合的に判断し博士前期課程対象2名を選考した。

受賞者はいずれも3に示す通り優れた業績をあげており、研究者としての将来性も豊かであると考えられ、表彰に値すると判断した。

なお、惜しくも選考にもれた応募者の業績は、研究に対する真摯な姿勢が感じられた。

受賞者一覧（五十音順・敬称略）在学年次は応募当時

博士前期課程対象

| 氏名 | 大学・大学院名 | 修了年又は 在学年 | 業績 |
|--------------------------------|---------------------------|-----------------|--|
| <small>あらいはるき</small> 新井晴季 | 芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻 | 平成31年 (2019) | 耐震補強済みのRC造学校建物の耐震性能評価に関する研究 |
| <small>やまもとゆうた</small> 山本裕太 | 千葉大学大学院融合理工学府創成工学専攻建築学コース | 2年 | 梁端ヒンジリロケーション梁を用いた超高層RC造骨組みの地震時変形に関する研究 |

3. 選評

新井晴季君

一般に、既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震補強は、地震による倒壊・崩壊を防ぎ人命を守ることを目的としている。新井君は、熊本地震を経験した耐震補強済みの学校建築物の現地調査を行った。被害状況を把握するとともに、耐震診断、静的増分解析、地震応答解析を行い、 I_s 値、層せん断力一層間変形角関係、最大層間変形角と実被害との関係等を整理した。耐震補強済みの建築物でも補強方法と入力地震動の関係から大きな被害が生じる可能性があることを指摘している。本業績は、耐震補強における性能設計の今後の展開・発展に寄与する有用な成果と認められる。

山本 裕太君

超高層鉄筋コンクリート造骨組のロングスパン化には、梁端に計画する降伏ヒンジを梁端から離れた位置に移動させるヒンジリロケーション (HR) が有効な方法のひとつであり、近年精力的に研究が実施されている。そこで山本君は、過去に実施した HR を採用した十字型・ト型骨組みの静的加力実験結果を参考に、ヒンジ発生位置が異なる場合の詳細な FEM 解析を実施し、その構造特性を検討している。更に骨組解析に適切な部材モデルを検討して、骨組全体の地震応答解析を実施し、HR が建物全体の挙動に与える影響を検討している。精緻な解析を丹念に重ねており、研究成果としても実務上有益な成果が得られている。

令和元年度優秀若手構造研究者表彰選考委員会 (コンクリート系) 委員

| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 平石久廣 | 明治大学 | 名誉教授 |
| 勅使川原正臣 | 名古屋大学 | 大学院教授 |
| 塩原 等 | 東京大学 | 大学院 教授 |
| 五十田 博 | 京都大学 | 教授 |
| 楠 浩一 | 東京大学 | 教授 |
| 福山 洋 | 国土交通省 | 国土技術政策研究所建築研究部長 |